

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	無所属・参政党
代表者名	伊藤 正義

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和8年6月15日提出

活動年月日	令和8年4月13日（月）～ 4月14日（火）	
氏名	伊藤正義	
用務先 及び 内 容	1 4月13日	用務先 東京都江戸川区 内 容 子ども哲学対話の取り組みについて
	2 4月14日	用務先 埼玉県深谷市 内 容 「深谷の子『6つの誓い』」の取組について
	3 月 日	用務先 内 容
	4 月 日	用務先 内 容
	備 考	

政務活動調査報告書

視察日	令和8年4月13日
視察場所	東京都江戸川区
視察目的	子ども哲学対話の取り組みについて
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

1. 江戸川区の概要

人口 702,397 人（令和8年4月現在）、面積 49.09 ㎡

東京都の区部東部に位置する特別区である。東京 23 区の東南端に位置し、東を流れる江戸川（旧江戸川を含む）を挟んで千葉県と向かい合っている。

花と野菜の出荷額（令和元年産出額）が 23 区でもっとも多い。アサガオ、ポインセチア、小松菜、えだまめなど、様々な花と野菜の特産地となっている。特に小松菜収穫量は東京都全体の約 40%。金魚養殖が盛んで、日本の“三大金魚生産地”のひとつと言われてきた。

2. 概要

●取組の概要と開始の経緯

・江戸川区の未来館でゼミを毎年開催している。その中で「法律」や「政治」をテーマとしたゼミはあったが、特定のテーマについてのゼミになるためテーマを絞らずに「考える」ということをやる場を作りたかったため、2016年に「哲学対話」を開始した。

・立教大学の河野教授が哲学対話について研究をされているため連絡を取り、講師を依頼したら承諾してくれた。とても低い報酬で請け負ってくれており、ほぼ毎回講師としてきてくれている。

・他の自治体では、単発で哲学対話をやっていることはあるが、10年近く継続してやっているのは江戸川区だけ。

・哲学対話のねらい

- ・他者とともに対話することのできる身体性を獲得すること
- ・自分自身の考えを問い直したり、考えの幅を広げたりできるようになること
- ・粘り強く考えることのできる思考力、知的体力を身に付けること
- ・多様性の尊重と他者への寛容さを養うこと

・哲学対話は1年間通してのゼミで、月に1回全12回開催している。参加対象は小学3～6年生まで。定員は24名。

・対話のテーマは毎月違うものを設定している。「家族」「環境」や、「造形」として、各人が作ったものについてお店のような形式で対話したり、グループで作成したものについて対話をするもの、

「ウォーク」として外に出て江戸川沿いを歩いて写真を撮ったりして、戻ってきてから感じたことについて対話をするもの、「絵画」として美術館に行き、ある絵画について学芸員から説明を受け、その後絵画について思ったことを対話するなどの形式もある。

- ・対話の進め方としては、はじめに今回のテーマについて10～15分程度説明して、各グループでテーマに沿ってグループで対話をしたい「問」を立てる時間を数分取る。その後、その問について対話を30分ほど行う。

1 グループに子どもが3～4名。ファシリテーターが1グループあたり2～3名つく。

終わった後には、読書の促進として今回のテーマに関連した本を図書館と連携して紹介している。

- ・哲学対話なので、最終的な結論や答えはない。グループで様々なことを対話していく。

ファシリテーターはルールの順守や対話の中で出てきた問についてさらに深掘りするための促しなどを行う。ファシリテーターの力量で対話の深みが変わってくる。

- ・科学未来館へ行って哲学対話を行うこともある。普段とは環境も変わり、ファシリテーターも変わることによって緊張感も変わる。安心して話せる環境を作るのも大切だが、刺激も必要である。

●ファシリテーターの確保

- ・河野教授、静岡福祉大学の得居教授、そして河野教授のゼミ生が教育の一環としてファシリテーターをやってくれている。

- ・こども未来館としてボランティアを募集しており、哲学ゼミ担当のボランティアもおおり、その方も加わる。ゼミの学生と哲学対話卒業生合わせて13名とボランティア3名。

●取組後の児童等の変化

- ・月1回のゼミでは大きな変化とまでは言えないが、人の話を聞き、その意見を受け止めること、頭で整理して話をし、人に自分の意見を伝えることができるようになっていく。哲学対話の説明文に「対話をして、考える力、話す力、聴く力を磨きましょう。」と記載しているので、少し落ち着きがなく、人とのコミュニケーションに不安な生徒が、親の少しでも良くなってほしいとの想いで参加することがあり、その後じっと黙って人の意見を聞くことが少しずつできるようになっている。

- ・ゼミの間は、学校が違う子と話をすることになるため、子どもにとって第三の居場所になっている。

●その他

- ・哲学対話のテーマのゼミを続けていることで、哲学対話の認知が上がっている。

- ・近年未来館に来館する子どもの変化として、集中力が短くなっている子、自分の意見を主張する子が減っている。反面空気を察する子が増えている。

・ゼミの案内は江戸川区内の学校全てに配布しているが、申し込みがあるのは余裕がある子どもが多い。親が申し込みする場合と子どもが申し込みする場合と両方がある。

3. 所感

月1回の哲学対話では子どもに大きな変化をもたらすではないが、子どもにとって良い経験となり、何かにつながればいいと言われていたことが印象的であった。大きな成果を求めて実施しては、続かないのかもしれないと感じた。

10年も継続していることで、少なくとも哲学対話の認知度は上がっているだろうし、受講した子ども、大学のゼミ生にとっても良い経験となっているだろうと思う。

学校で哲学対話のように答えのない対話をする時間を取り入れていただきたいと思うが、まずはイベントという形でも導入いただき、認知度を上げていくこと、哲学対話を経験する子どもや大人を増やしていきたいと思った。また、現在はゲームやデジタル機器が発達して、人との対話や一人で深く考える、自分と向き合うという機会が減っているように思うので、このような機会に触れることは子どもにとってとても大切であると思う。引き続き研究していきたい。



政務活動調査報告書

視察日	令和8年4月14日
視察場所	埼玉県深谷市
視察目的	「深谷の子『6つの誓い』」の取組について
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

1. 深谷市の概要

人口 138,236 人（令和8年5月現在）、面積 138.37 ㎡

平成18年1月1日、深谷市、岡部町、川本町、花園町が合併して今の「深谷市」となった。埼玉県北西部に位置し東京都心から70キロメートル圏にある。北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっている。

全国でも有数の野菜生産地で、「深谷ねぎ」をはじめ、「深谷ブロッコリー」やきゅうりの生産量も全国トップクラスを誇っている。

2. 概要

●取組開始の経緯

深谷の子「6つの誓い」は、立志と忠恕の深谷教育プラン「深谷市教育振興基本計画」に基づき、郷土の偉人である「渋沢栄一翁」の生き方から教育的価値を見出し、深谷教育の柱とすることをコンセプトに考えた。

深谷市のめざす子ども像は「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」めざす子ども像の育成につながる行動目標を策定しようということで、どのような教育をすればいいかを「青淵学びの郷づくり」心の教育推進協議会（学校・家庭・地域の代表者が参加する会議）で話し合って決めた。

平成27年に「6つの誓い」を策定。

立志の精神（夢とこころざし）

- ・私は、夢に向かって努力します。
- ・私は、毎日勉強します。
- ・私は、たくさんの挑戦、体験をします。

忠恕の心（まごころと思いやり）

- ・私は、すすんであいさつをします。
- ・私は、脱いだくつをそろえます。
- ・私は、心のこもったことばをつかいます。

●学校における「6つの誓い」の取組

- ・「6つの誓い」のリーフレットの配布

幼稚園新入児、小学校新入生、市外からの転入生へ配っている。先生も誓いを意識して取り組んでいる。

- ・毎月の生活目標を立てる際に6つの近いに関連づけて作成。学校での取り組みを行う際にも、常に6つの誓いに関連づける。
- ・独自にころざし読本という道徳副読本を作成して活用している。年間2回はころざし読本を使って授業を行う。
- ・「ふるさと先生」による授業を年一回行っている。

ふるさと先生とは、渋沢栄一記念館の解説員や地域のことをよく知っている方。5～6名の方に依頼して行っている。

- ・中学二年生で、「立志式」、「社会体験チャレンジ」を行っている。

～自らの生き方を考えさせ、立志の精神を受け継ぐ～

- ・忠恕の心をつづる「ありがとうの手紙」

書くことで夢や思いやりに気づく機会になっている。

- ・「まごころ訪問」地域のお年寄りに花と手紙を届ける。花は苗から育て、花と手紙を民生委員さんへ渡し、民生委員さんからお一人暮らしの高齢者へ渡してもらう。

7000人へお渡ししている。小学校19校。1校あたり300鉢を育てる。

●深谷の子「6つの誓い」の日

平成31年から、毎年6月6日を「深谷の子『6つの誓い』の日」として、約1週間各校で様々な取組をしている。

○全校での取組

- ・「6つの誓い」ワークシートを作成し、6つの誓いの中から、家族と一緒に取り組むことを決める。1週間実践し、振り返りを行う。ワークシートはキャリアパスポートに入れる。振り返りチャートを作って、自分の評価と周りからの評価を客観視できるようにしている。

○各校の取組

- ・「ころざし読本」朝読会
- ・児童生徒による校内放送。6つの誓いの日であることを呼びかける。
- ・「6つの誓い」キャンペーン。あいさつ、くつそろえなど目標表明して取り組む。
- ・論語の暗唱
- ・自主勉強紹介

- ・「6つの誓いの日」には渋沢栄一翁関連給食メニューが出る。
- ・先生も渋沢栄一記念館に行くなどして学んでいる。
- ・成果：各校で工夫を凝らした取組を実践し、6つの誓いが浸透している。子どもと家庭で共に取り組むことができている。
- ・課題：家庭の中で取組はできているが、地域を巻き込んだ取組まで広がっていないことが課題である。

●取組後の児童の変化について

- ・学力学習状況調査結果から、「将来の夢や目標を持っていますか？」という質問は、市は 83.9%、県 77.3%、全国 75.3%と県及び全国平均よりも上回っている。
- ・児童生徒のあいさつがよいと地域の方や市外から来た方からも言われる。
- ・立志の精神、忠恕の心が児童生徒に育っている。

3. 所感

深谷市の偉人である渋沢栄一翁の生き方から学ぶ具体的な取組を各学校で実践していることに感銘を受けた。スローガンのような抽象的なものではなく、具体的な行動を6つの誓いとして策定しているので、とてもわかりやすく、生徒も取り組みやすいのだと思う。また、学校内にとどまるのではなく、家庭、地域を巻き込んで取組を行っている点も素晴らしいと思う。

岡崎市でも徳川家康公に学ぶ教材や検定などあり、学校教育で活かされているが、もっと偉人の生き方からより具体的な取組まで落とし込み、児童生徒の行動目標を作成しても良いと思った。また、偉人の生き方を通して志を持ってもらうことはとても大切なことで、岡崎市でも職業体験や夢について考える時間を作るなど取り組みはされているが、さらに工夫したことができないか今回の深谷市の取り組みから考えていきたいと思う。

